

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポートみかん高辺台（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 1日		～	令和7年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数)	9
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 1日		～	令和7年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 4月 4日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	感覚統合を用いたプログラムやコーディネーショントレーニングなど専門的なプログラム指導があり、発達状況に合わせて柔軟に対応できること	月ごとや児童の発達状況に応じて変化のあるプログラムが用意されていること	常に新しいプログラムを開発し、研究や模擬授業の充実を図っていくこと
2	保育所等訪問支援や相談支援事業所が併設されているので、園や学校機関との連携の強化が図りやすこと	訪問記録が見れる状態になっており、普段の子どもたちの様子が鮮明になっていくことで、療育上の課題点や注意点がより明確になることで、子どもたちの特性に向き合いやすい	更なる指導員の成長を図るための研修制度や実践練習の充実を図ることと同時に各関係機関との連携が図りやすくなる信頼獲得につながる行動の強化
3	3つの部屋（余暇室、訓練室、学習室）にわかれており、より落ち着いた環境化で過ごせる部屋が用意されていること	3つの部屋にわかれていて、切り替えの練習や各環境下に応じた子どもの過ごし方など行動の改善につながる効果がでるような取り組みを行っている。	更なる部屋の構造化やあえて構造化を外していくことでの社会生活においての適応力の向上を図っていくシステムづくり

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様や児童からは外出やイベントの開催及び長時間のご利用を期待されているが対応できていない部分がある	左記のような要望があがるのは、現状の療育サービスに十分な満足を得られていない可能性を感じると捉えている	みかんで実施している療育サービスにおいて、プログラムを遂行する人間の成長するため。主体性をもった行動がもてるスタッフの育成及び研修制度。また自らが勉強したくなる気持ちを揺り動かす会社の仕組みの改善
2	利用時の活動などのフィードバックが充分に行き届いていないと感じられている保護者様がいる	事業所のしていることがまだまだ保護者様のご理解を頂けていない現状があることから、保護者様への報告について、フィードバックの仕方、会話の仕方、及びツールの活用が充分にできなかったところと捉える	会話の仕方や保護者様への共感も含めて、スタッフ自身のスキルや心持ちようを鍛えるため、療育スキルだけでなく、人としての話を聞くということの練習や電話対応のマナー講習も取り入れていく。またツールを充実させる。例 活動を動画で報告 月間便りを作成
3	外部への研修機会が少ない	事業所での研修機会やその時間は用意しているものの、そ外部研修に時間を割く余裕がない現状もある。	いつでも見える社内用の研修動画の充実や模擬授業や自己研磨の時間などは配分していく。社内研修の機会等は基本持つていくが、同時に見識を広めたい時に自ら勉強をしに行く姿勢や行動がとれるスタッフが出てくるよう会社制度の充実化を図る

令和6年度

事業所名:こどもサポートみかん高辺台

自己評価表(児童発達支援)高辺台

公表日: 令和7年 4月 10日

保護者用

利用児童数: 25

回収数:

9

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	改善点等
環境・ 体制整備	①こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	78%	22%	0%	0%		
	②職員の配置数は適切であると思いますか。	67%	11%	0%	22%		
	③事業所内は清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		
適切な支援の提供	④こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	78%	11%	0%	11%	①特性に応じているのかは分からない	①ご指摘ありがとうございます。 みかんでは特性に応じて療育を実施しておりますが、もしご質問等がありましたらラインや直接スタッフまでお問合せ頂けますでしょうか。何卒よろしくお願い致します
	⑤事業所がHP等で公表している支援プログラムと、実際のサービスに相違はありませんか。	89%	0%	0%	11%		
	⑥こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画が作成されていると思いますか。	89%	0%	0%	11%		
	⑦個別支援計画には、「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」の必要な項目が盛り込まれた計画になっていますか。	89%	11%	0%	0%		
	⑧放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	89%	0%	0%	11%		
	⑨事業所の活動が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	56%	33%	0%	11%		
保護者への説明	⑩事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100%	0%	0%	0%		
	⑪「個別支援計画」はニーズに沿った内容になっていますか。	100%	0%	0%	0%		
	⑫事業所では、家族に対して相談支援や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	44%	22%	0%	33%		
	⑬定期的にこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	78%	22%	0%	0%		
	⑭定期的に、モニタリングや面談にて子育てに関する助言等の相談支援が行われていますか。	78%	11%	0%	11%		
	⑮事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	89%	11%	0%	0%		
	⑯こどもや家族からの相談や申し入れについて、迅速かつ適切に対応されていますか。	89%	0%	0%	11%		
	⑰こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	89%	11%	0%	0%		
	⑱定期的にラインやホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	78%	0%	0%	22%		

非常時の対応	⑱事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	78%	0%	0%	22%		
	㉔安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		
	㉕事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	89%	0%	0%	11%		
満足度	㉖子どもは安心感をもって通所していますか。	89%	11%	0%	0%		
	㉗子どもは通所を楽しみにしていますか。	89%	11%	0%	0%		
	㉘事業所の支援に満足していますか。	89%	11%	0%	0%		
	㉙イベントなど、どのようなサービスがあればありがたいか等、ご意見がございましたらご入力ください。					①保護者交流会のようなものがあれば参加したいなと思います。 ②親子、兄弟も参加の楽しいイベントがあれば嬉しいなと思います	①②ご要望を挙げて頂きありがとうございます。保護者様交流会や親子イベントについてはまた検討させていただきますので何卒よろしくお願い致します

令和6年度
自己評価表(児童発達支援)
事業所名:こどもサポートみかん高辺台

職員用

公表日: 令和7年4月10日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	80%	20%	・時間を調整して子供のいる人数を調整していること。 ・午前中利用をするなどして、少人数で受け入れている ・パーテーションで仕切ったりして、確保出来ている	・時間帯によって子供が密集してしまう場面があり、落ち着いてめり絵や折り紙をしてもらおうと思うが机が足りないと思う時がある ・余暇中過ごす玩具を定期的に入れ替えてまんねりを防ぐ必要がある
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	80%	20%	・送迎時二人体制で行く等、個人の特性に合わせて配置をしている。	・適切ではあるが、こどもの人数や状態によっては瞬間的に手薄になることはあるので、余剰でスタッフがあるとうい
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%	0%	・カーテン等で目隠しをし、入ってくる情報を少なくしている。 ・子供に応じ、道具等を倉庫に入れる等の配慮もしている。	・余暇室への入り口に段差があるため、構造化する等跟进にくい対応が必要
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	80%	20%	・毎日チェックリストを用いて掃除を行い適温を心がけている。 ・危険防止の為、窓は全開にしないようにしている	・目隠し用カーテンのほつれなど細かい部分がすぐ改善できない時があるため、終礼時等での共有や毎日には必要でないが、月に一度は点検する等の月間チェックリストに項目を適宜追加しながら確認していく
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	80%	20%	・部屋が空いている場合は個別に対応できる。空いていなければ、活動の隅のスペースを活用してパーテーションなどで区切って対応できている	・場面によっては全ての部屋が活用されていてパーテーションなどで区切って対応するがスペースが狭い時がある
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	80%	20%	・毎月全職員が業務の振り返りを実施している。 ・毎月の研修及び、日常的に日誌で確認できるようになっている。	・勤務形態によってはうまく参画できていないように感じる部分もあるので、巻き込んで全員で取り組めるシステム構築や対応を行っていく
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	・日々の申し送りや終礼で共有しており、対応をその都度考えている	・業務改善を行うが、ヒューマンエラーが出てしまうため、極力システム的に対応したり気づける環境設定を行っていく。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	80%	20%	・研修アンケートや日々終礼にて意見を言えたり伝達できる環境になっている。 ・意見を言いやすい人間関係があるという声が上がっている	・勤務形態によっては認知できていない職員がいるため、全員に共有しながら取り組めるシステム構築や対応を行っていく
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	20%	80%	・年に一度の自己評価を受けて業務改善に努めている。	・自己評価以外の第三者評価は行えていないが、現状のシステム、対応で滞りなく進めることができているので、職員含め環境的に必要になった場合は導入検討していく。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	・都合の良い時間に研修できるように配信したり、全員や個別で研修する機会がある ・定期的な月間研修や業務時間内に自己研磨の時間を設けている ・知識だけでなく、模擬授業や全体研修にてスキル等実技を学ぶ機会を設けている	・内部研修が充実しているが、必要最低限以外の外部研修の参加が少ない
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	80%	20%	・HPIに活動プログラムや活動例を提示している ・職員間にも指導、活動プログラムを配信している	・指導に関わる職員以外、詳細なプログラム共有が行き届いていない部分があったため、即時改善している
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%	0%	・対面や電話で保護者様、関係機関から情報収集し、日々の療育記録等を含めてアセスメントを行い作成している	・更にブラッシュアップしていく為により細やかなアセスメントツール等を開発していく
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	・日誌や口頭で情報共有しながら検討している	・より全員が共通理解を深められるように確認できるツールや検討する機会を設けていく
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	・職員がいつでも見られるように管理している	・より全員が共通理解を深められるように確認できるツールや検討する機会を設けていく
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	80%	20%	・実施記録表や活動を数値化して数値管理するツールを活用、確認している	・職員によってはフォーマル、インフォーマルなツールと認識できていないことがあったため、都度説明を行いながら理解を深めていく
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	・ガイドラインを読み込み、個々によって具体的な支援内容を設定して行っている	・ニーズに沿った支援計画を継続できるように今後も進めていく
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	67%	33%	・活動プログラムの立案はトップダウン形式だが、一部チーフスタッフにて考案したり、研修等で活動を考える時間を設けている	・全体を巻き込んで各々意欲的に参画できるようにブラッシュアップしていく
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	・発達に応じた運動プログラム、日課活動を取り入れて活動の軸はあるが変化のある活動ができるようになっている。	・基本的には固定化されないシステムになっているが、より工夫できる部分がないか常に振り返りながら進めていく。
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	・子どもの状況によって個別、小集団の活動を組み合わせで行っている	・曜日固定ではなく予約制のため、日によっては小集団活動が実施できない時があるが、職員が子役で参画して合わせる活動を行うなど工夫している。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	・朝礼を行い情報共有し、朝礼に参加できない職員にはシートに記載されている確認事項等を確認し共有できるシステムにしている	・確認事項等を文章だけで確認するだけでなく、途中から出勤する職員にも朝礼をしてほしいという意見があがっているため、療育対応中や手がどうしても離せない時以外は極力共有時間を設けていく
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%	0%	・毎日終礼で情報共有を行い、当日出勤してなくても日誌で確認できるようにしている ・終礼に参加出来ない職員にも共有しようとする職員の姿勢がある	・日誌が電子化されパソコン見れない職員は確認できないことがあるため、一時的に印刷することやタブレットにて確認できるように進めていく
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	・本人の強み、克服点など必ず日誌に記入し情報共有を行い支援に取り組んでいる。	・更に見やすく、必要な情報を確認できるように記録用紙のブラッシュアップを図っていく。

令和6年度
自己評価表(児童発達支援)
事業所名:こどもサポートみかん高辺台

職員用

公表日: 令和7年4月10日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点	課題や改善すべき点
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	・月ごとのフォルダでチェックリストを設けており、漏れなく実施できるようなシステムを構築している ・都度対面等にて保護者様と話し合い、見直しを行っている	・モニタリング時に必要な情報を聞き取って以降の支援に活かすことができるように常に見直ししていく
	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	・基本的には児発管が参加しているが、場合によっては担当支援の職員が参加する場合もある	・基本的に児発管一人で参加するため、担当職員も一緒に参加できる機会を設けられるように人員配置に努めていく
	25 地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	80%	20%	・訪問支援員や相談員がみかんにいるため、より連携をとりやすい環境で情報共有等を行っている	・定期的に情報共有出来ていない機関もあるため、巻き込みながらチームとして携われるように進めていく
関係機関や保護者との連携	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%	・基本的に併行利用が多く、支援内容等の情報は可能な限り電話や訪問支援員、相談員を介して共有する等行っている	・引き続き理解頂けるように努めていく
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%	・デイでの様子等を伝達する機会がある場合は行っている	・伝達機会がない場合はうまく情報共有できていないケースもあるため、本人の情報をまとめた書面を作成する等進めていく
	28 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	40%	60%	・児童発達支援センターと関わりのある児童の場合は連携を図っている	・引き続き必要なケースは相談、助言を頂きながら進めていく
	29 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	40%	60%	・地域と交流することを目的とする療育ではないため、それ以外の部分で尖るサービスを行っている。	・地域と交流をとる目的の療育ではないため機会は設けていない
	30 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	・お迎え時に様子等をお伝えしたり、不定期で個人情報同意の範囲内で動画共有し、状況や課題について共通理解できるように努めている。	・連絡帳がないため、伝達方法や頻度など適宜見直していく。
	31 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	60%	40%	・更新頻度は少ないが、講座の動画を配信している	・更新頻度が少ないため、更新頻度を確保する、もしくは別の機会を設けていく
	32 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	・支援プログラム等のサービスについて体験時に、運営規定や利用者負担などについて契約時に必ず説明するように項目を決めて執り行っている	・以降は詳細の説明は行っていないため忘れられる保護者様もいる。対象者には適宜説明や規定等については年に1度配信する等検討していく
	33 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	・計画書を作る際に必ずモニタリングを行い、意向やニーズの抽出を行っている。	・現状の対応を継続していく
	34 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%	0%	・必ず計画書を提示してサインを頂いている	・送迎時にしかお会いできない方等については、作成した職員が直接説明できない時もある
	35 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	・モニタリング以外にも適宜相談があれば迅速に対応し、必要な情報、助言提示している	・相談頂く頻度はそれなりに多い方だと感じているが、うまく吸い上げられていないケースもあると想定するため、相談しやすい環境設定に努めていく
保護者への説明等	36 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	20%	80%	・以前、保護者様が集まって講座を実施することがあった	・最近では父母の会を開催する機会を設けられておらず、療育時間で実施する時間の確保も難しい
	37 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	・電話だけでなく事業所ラインを活用して随時相談しやすい環境を整えている ・相談があった場合は可能な範囲で迅速に対応実施している	・児発管が中心となって相談対応しているが、児発管以外の職員も相談対応できる知識、技術を身につけていく
	38 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	80%	20%	・避難訓練、イベント、お子様の情報等を事業所ラインを活用して実施している	・引き続き事業所ラインを中心に発信していく
	39 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	・請求書類の額が見えない様にファイルに入れたり、定期的な研修を通して個人情報の取扱いについて理解を深めて取り組んでいる	・継続して個人情報に留意した対応を行っていく
	40 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	・ボードを使ってコミュニケーションをとったり、会話での理解が苦手な方に対してはライン等文字で残る形で対応している	・引き続き必要な配慮を行っていく
	41 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	20%	80%	・極力刺激を抑えた中での療育を行っているため、刺激が増える対応は行っていない	・制度的に必須項目にならない限りは現状を継続していく
	42 安全計画、業務継続計画(BCP)、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%	・毎年職員や保護者様に配信している ・定期的に避難訓練や災害等に関する研修を行っている	・マニュアルが多くて浸透しづらい部分がある
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%	0%	・事前調査書の項目に服薬等の情報を入力して把握できるようにしている	・予防接種の項目は入っていない
	44 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	・ヒヤリハットが発生した場合は報告書を作成し、検討、周知を行っている	・現状の対応を継続していく
	45 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	・年に2回以上虐待防止についての研修を行っている	・新しく入社した職員にもできるだけ早く知識、技術を身につけられるように研修を実施していく
非常時等の対応	46 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%	0%	・身体拘束の必要なケースを含め、職員間で情報共有しながら意思決定できている	・現状、身体拘束の必要なケースは出ていないため計画書に反映していないが、必要なケースが出た場合は保護者様に了解を得て実施する予定